

令和5年度 学童クラブ事業年間活動報告書

京都市修徳児童館

	活動の基本目標（指針）	主な取組名	成果と課題
	<p>安全・衛生の確保</p> <p>5時帰り 交通安全の取組</p> <p>健康の管理・情緒の安定</p> <p>基本的な生活習慣の確立</p> <p>社会生活技術の獲得</p>	<p>手洗い消毒の励行（石鹸 消毒液の使用） 感染症予防・感染症対策 新型コロナ感染症対策として あいさつ運動</p> <p>グループ活動</p> <p>物の管理・取扱いについて</p> <p>地域の公園の利用について</p> <p>時間の使い方の選択・決定と後片づけの励行</p> <p>多彩な子どもたちとの遊びを通じて関わり</p> <p>放課後お手伝い隊</p> <p>館外活動</p>	<p>公道では安全に歩き、帰宅するようにと指導している。帰路でふざける子がいるため、安全に帰るよう保護者の理解と協力が必要なため、保護者への連絡・相談をした。親子で学校から児童館へのルートと自宅への帰宅ルートを歩いて練習することをお願いした。</p> <p>帰宅する人数が少人数のため、グループをつくりにくい状態にある。個人で帰宅する力をつけていくための働きかけが必要。今年度は交通安全教室を実施し、実際に児童館から自宅へ帰る5時帰りの2つのコースを、下京警察署の交通課の方と一緒に歩いてもらい、気を付けるポイントの指導をしてもらった。</p> <p>子どもたちの中で習慣化していくよう、帰ってきたら声かけをするよう大人スタッフも意識をする</p> <p>子どもたちに自分の体を自分で守るという意識を育てると共に、感染症拡大防止への取り組みを身に付けさせていく。手洗い消毒を促した。また児童館内の消毒作業を子どもたちと一緒にすることで、意識啓発にもつながった。</p> <p>帰館時の挨拶（ただいま。～します。）はおおむねできるようになったが、丁寧な行動とあいさつの意味合いを考えさせるようにしたい。</p> <p>長期休暇中、せんだんホールをお借りして、30人規模でみんなあそびを実施した。高学年が低学年の子ども達をうまくまとめて、みんなで楽しく過ごすために、あそびを企画したり、片付け作業なども頑張ってくれた。</p> <p>放課後は時間が少ないため、グループ活動を継続的に実施するのに工夫が必要に感じる</p> <p>暫定的に個人ロッカーが一人一つずつ確保されていない状態ではあるものの、荷物やもちもの紛失・忘れ物が多い。公共のものを大事に扱うというのを帰りの会等で反省をまじえながら話をした。</p> <p>地域の公園であそぶ時に、地域の乳幼児親子から大人までが気持ちよく集えることを考えられるように話し合いを重ねた。あそびで場所を区切ったり、ホールの使用で公園の木々や公共の倉庫や車を傷つけないように今後も子ども達に考える機会を持ちたい。</p> <p>放課後の時間の使い方を自ら決め、後片付けに取り組むことを大事にした。今後も継続を図る。</p> <p>子どもたちの現状・実情に合わせて、自分で考えて行動できるように、ある程度の道筋やルールを確定させていく必要がある。</p> <p>1日の流れをホワイトボードに示して、視覚的にわかりやすくした。小さなホワイトボードも多用して、次の予定等を細かく示して、子ども達が次の行動への見通しを持ちやすくした。</p> <p>仲良しの子が学童を欠席すると、遊ぶ相手が居ないと大人のところにやってくる子どもたちがいる。</p> <p>あそびの中で新しい友達関係を育てていく時間と場所、大人がうまくサポートできるようにする。</p> <p>そのために、子どもたちの状況の分析・働きかけの方針を決めて、運営をしていく。</p> <p>夕方時間を決めて子ども達がゴミ集め、集積場所に持っていくお手伝いをしてくれた。</p> <p>自分達が児童館のために役に立つことをすることで満足感と自信につながっている。</p> <p>3年生が夏休みに観劇に行った。公共交通機関の利用の仕方や公共の場での気を付けることを学ぶことができた。</p> <p>できる形で地域住民等とのかわりをつくっていききたい。</p> <p>自然体験の機会をつくっていききたい。</p>
	<p>生活体験の拡大</p> <p>社会性の養成</p> <p>自立の促進と自主性の尊重</p>	<p>併設老人ホームやデイサービスとのふれあい交流</p> <p>らんらんランチ</p> <p>他館との交流事業</p> <p>にじいろマルシェスペシャル</p> <p>遊びの選択・決定と後片づけの励行 生活スケジュール</p> <p>バースデースペシャルおやつ券</p> <p>グループ会議</p> <p>3年生・5年生・6年生企画</p>	<p>にじいろマルシェで特養の方やデイサービスの利用者さん達とふれあい交流をした。デイサービスの利用者さんとの特異交流も行った。</p> <p>異世代の交流があることで、存在が認められる機会になると思う。できる形で交流の機会をつくっていただけたい。</p> <p>食の生活体験を増やすために、土曜日にお昼ごはんの買い物を実践した。飲食店で買ったものを体験したことで、欲しいものを選び方、買い物に必要な計算などを体験できた。普段の生活で経験できない児童のためにこれからも継続していききたい。</p> <p>下京区の4館でオニム交流会が実施できた。1年生から5年生までの児童が一緒にお出かけすることができ、他館の児童とも交流することができた。このような経験が子どもの成長に大切であることが実感できた。</p> <p>成徳学舎にて実施した。</p> <p>普段かわりの少ない年齢・年代の人が一緒にいる空間をつくったことで、どのようにふるまったらよいかを考える機会になったと感じている。</p> <p>自らが決め、遊び、後片付けに取り組むことを大事にした。今後も継続を図る。</p> <p>大まかなスケジュールを表示して、子どもたちに考えるきっかけを作った。</p> <p>土曜日など利用者が少人数の時は、どの部屋で遊ぶかなど、「自分たちで決める」という時間をつくった。</p> <p>誕生日のお祝いにいつものおやつにプラスして、もうひとつ自分の欲しいおやつをプレゼントした。スペシャルおやつ券をもらえることで、みんな自分の誕生日の月になることを楽しみにしてくれていた。</p> <p>学年で分けたグループで長期休み等はグループワークを実施した。</p> <p>子どもたちの中で目標が生まれ、ルールをつくりその中の責任を考える機会になった。</p> <p>メンバーを固定せず、少人数でグループを作り、ミーティング形式でグループワークを実施していききたい</p> <p>ルールをつくり、自分たちで守る、ルールを変更するなど展開を見守るようにした</p> <p>自分達の”やりたい”を実現していくために会議を重ねて、企画・準備を頑張った。各学年、仲間意識が強まり、絆が強まる良い機会となった。</p> <p>6年生は休会者も交えてお出かけを企画した。中学生になってからの児童館利用につなげるための機会となった。</p>
<p>子育て支援機能</p>	<p>子育てに必要な情報の提供と交換</p> <p>学童クラブ保護者懇談会の実施</p> <p>うえぶさくらのメッセージによる情報発信</p> <p>子育ての仲間づくり</p> <p>子育てを支えるネットワーク形成</p>	<p>学童クラブだよりの発刊（毎月）</p> <p>学童クラブ保護者懇談会の実施</p> <p>うえぶさくらのメッセージによる情報発信</p> <p>保護者懇談会</p> <p>クリーンサタデーの実施</p> <p>子ども支援センター・学校等とのケース会議や 日常の相談</p>	<p>子どもたちの様子を伝えることに重点を置き、写真を多用して作成。</p> <p>行事の報告だけでなく、日ごろの様子を写真に収め、紙面に並べて発行した。（9月からうえぶさくらで配信）</p> <p>子どもたちの様子を伝えるとともに保護者同士の交流を図った。</p> <p>多くの保護者に参加をしてもらうために、懇談会時にご当地パンまつりをしたり、学童クラブのおやつランキング発表をして、保護者に子ども達のうえぶさくらを試食してもらって工夫をした。</p> <p>学童からの連絡が確実に保護者に伝わり、書類などの提出がスムーズになった。</p> <p>親同士が顔を合わせる機会が少なくなっているため、保護者の交流の場を設定して、保護者同士の情報交換ができるようにした。</p> <p>た。</p> <p>個別ケースについて地域の諸機関と連携、相談。</p>